

2026年6月期 決算短信(日本基準)(連結)

2026年8月7日

上場会社名 株式会社 ホーブ
コード番号 1382 URL <https://hob.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 政場 秀
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 馬場 文秀
定時株主総会開催予定日 2026年9月29日 配当支払開始予定日 2026年9月30日
有価証券報告書提出予定日 2026年9月28日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

上場取引所 東
TEL 0166-83-3555

(百万円未満切捨て)

1. 2026年6月期の連結業績(2025年7月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績 (％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年6月期	2,372	1.7	22	—	18	—	27	—
2025年6月期	2,412	4.2	38	16.4	39	3.6	24	23.5

(注) 包括利益 2026年6月期 27百万円 (—％) 2025年6月期 24百万円 (23.5％)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	％	％	％
2026年6月期	36.71	—	3.9	1.7	0.9
2025年6月期	32.44	—	3.2	3.6	1.6

(参考) 持分法投資損益 2026年6月期 ー百万円 2025年6月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年6月期	1,097	690	62.9	906.11
2025年6月期	1,069	756	70.7	992.86

(参考) 自己資本 2026年6月期 691百万円 2025年6月期 756百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年6月期	155	13	41	405
2025年6月期	16	19	41	306

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	％	％
2025年6月期	—	0.00	—	50.00	50.00	38	154.1	5.0
2026年6月期	—	0.00	—	50.00	50.00	38	136.2	5.3
2027年6月期(予想)	—	0.00	—	50.00	50.00		206.7	

3. 2027年 6月期の連結業績予想(2026年 7月 1日～2027年 6月30日)

(％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
第2四半期(累計)	1,343	6.9	16	—	16	—	12	—	15.94
通期	2,545	7.3	28	—	28	—	18	—	24.19

注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年6月期	762,000 株	2025年6月期	762,000 株
期末自己株式数	2026年6月期	380 株	2025年6月期	351 株
期中平均株式数	2026年6月期	761,625 株	2025年6月期	761,679 株

(参考) 個別業績の概要

1. 2026年6月期の個別業績 (2025年7月1日 ~ 2026年6月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期	2,217	2.8	40	—	29	—	35	—
2025年6月期	2,280	3.9	16	6.1	23	17.0	14	118.0

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期	46.06	—
2025年6月期	19.42	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年6月期	976	605	61.9	794.41
2025年6月期	958	678	70.8	890.52

(参考) 自己資本 2026年6月期 605百万円 2025年6月期 678百万円

2. 2027年 6月期の個別業績予想 (2026年 7月 1日 ~ 2027年 6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,257	5.9	13	—	19	—	16	—	21.24
通期	2,365	6.7	7	—	13	—	11	—	14.60

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等は、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
連結損益計算書	8
連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	12
(セグメント情報等の注記)	13
(1株当たり情報の注記)	17
(重要な後発事象の注記)	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、景気に緩やかな回復基調が見られました。一方で、ウクライナ情勢の緊迫化が長期にわたり、中東情勢の動向も不安定となる中、世界的な資源価格の値上がりや物流コストの高騰などが大幅な物価上昇を招くなど、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、自社品種「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）の生食用販売、業務用販売を中心に、いちご果実及びその他青果物の販売に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高は2,372,498千円（前期比1.7%減少）、営業損失は22,339千円（前期は営業利益38,066千円）、経常損失は18,370千円（前期は経常利益39,466千円）、親会社株主に帰属する当期純損失は27,958千円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益24,712千円）となりました。

当連結会計年度の当社グループが営む事業は、いちご果実・青果事業、種苗事業、馬鈴薯事業、運送事業の4事業となっております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(いちご果実・青果事業)

いちご果実・青果事業の主力商品は業務用いちご果実であります。当連結会計年度においては、夏秋期は「コア」（品種登録名「ペチカエバー」）、「夏瑞／なつみずき」（品種登録名「ペチカほのか」）などの自社開発品種と輸入いちごを、その後は国産促成いちご（とちあいか、とちおとめ、紅ほっぺなど）を主に販売しております。

自社品種については、主力産地である北海道の夏（6～8月）の気温が過去最高となるなど、長期間にわたり高温の影響を受けることとなりました。国産他品種も同様の傾向で、高温によりいちご果実の出荷量が急にピークを迎えたほか、品質の低下も招く結果となりました。また、出荷ピークを終えてからは大幅に出荷量が減少し、8月から9月下旬までは十分な販売量を確保することができませんでした。出荷ピークを終えた後に早めに栽培株を休ませて成り疲れからの回復を促すなど、猛暑を想定した自社品種の栽培管理により9月下旬から出荷数量が増加したものの、それまでの減少分をカバーするには至りませんでした。

12月のクリスマス時期にかけては、本州の厳しい残暑の影響で促成いちごの定植が遅れ、定植後の10月に曇天が続いたことでさらに生育が遅れが生じました。また、主力産地である栃木での大果系品種への切り替わりも重なり、11月からクリスマス時期にかけて業務用サイズの果実は全国的に品薄の状況が続きました。これにより十分な販売数量を確保することができず、クリスマス時期の販売数量は前年同時期を若干下回りました。

年明け以降の1～6月については、原材料価格の上昇や消費者の節約志向などを背景に、大手取引先を中心にいちご果実の取扱数量が前年同時期に比べ減少することとなりました。また、業務用サイズを中心に市場相場価格が例年に比べ高値で推移したことで、事前に販売価格を設定していた取引先に対しては利益が圧縮されることとなりました。

その他の青果物におきましては、コンビニエンスストアをはじめとした既存取引先において、フルーツの使用量が減少したことで、売上高、利益ともに前期を下回りました。

この結果、当連結会計年度におけるいちご果実・青果事業の売上高は2,083,962千円（前期比3.3%減少）、営業利益は106,335千円（前期比32.8%減少）となりました。

(種苗事業)

種苗事業は、自社いちご品種の「ペチカほのか」（商品名「夏瑞／なつみずき」）と「ペチカエバー」（商品名「コア」）を生産販売しております。自社いちご品種苗の販売先となる生産者は、一部を除き、栽培契約に基づいて、生産するいちご果実を当社に出荷しております。

当連結会計年度におきましては、契約産地において栽培面積が拡大し種苗の販売本数が増加したことに加え、栽培指導業務の受託による収益もあり、売上高、利益ともに増加いたしました。

この結果、当連結会計年度における種苗事業の売上高は58,017千円（前期比11.3%増加）、営業利益は24,463千円（前期比57.9%増加）となりました。

(馬鈴薯事業)

馬鈴薯事業は、主に種馬鈴薯の生産販売、仕入販売と、青果馬鈴薯の仕入販売からなり、主要売上品である種馬鈴薯には、秋から春にかけて販売する春作と夏に販売する秋作の2体系がありますが、そのメインは春作種馬鈴薯です。

秋作向けにおいては種馬鈴薯の生産面積が減少したことに伴い、種馬鈴薯の供給が不足することとなり、販売数量が減少いたしました。春作向けにおいても、種馬鈴薯産地の高温や干ばつの影響で生産量が減少し、販売数量は前期を下回りました。仕入単価の上昇に伴い、販売単価を上げたことで売上高は前期を上回りました。しかしながら、仕入単価上昇分を十分に販売単価に転嫁することができず、利益を確保することができませんでした。

この結果、当連結会計年度における馬鈴薯事業の売上高は75,699千円（前期比1.4%増加）、営業損失は244千円（前期は営業利益4,212千円）となりました。

(運送事業)

運送事業は、連結子会社「株式会社エス・ロジスティックス」が行っております。関東圏を中心とした事業展開で当社の商品配送を中核としつつ、一般荷主からの配送業務受託も行っております。

当連結会計年度におきましては、受託業務の見直しを進めたことで、売上高は前期を上回りました。利益につきましては、外注費及び人件費の増加に加え、車両の入替による減価償却費の増加の影響で、前期を下回りました。

この結果、当連結会計年度における運送事業の売上高は154,819千円（前期比17.3%増加）、営業利益は18,266千円（前期比15.1%減少）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比較し40,008千円増加し、当連結会計年度末976,574千円となりました。これは主に売掛金が減少したものの現金及び預金が増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度末と比較し11,741千円減少し、当連結会計年度末で121,382千円となりました。これは主に繰延税金資産が減少したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度末と比較して85,760千円増加し、当連結会計年度末で244,276千円となりました。これは主に買掛金が増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は、前連結会計年度末と比較して8,605千円増加し、当連結会計年度末で163,571千円となりました。これは主に退職給付に係る負債、役員退職慰労引当金が増加したことによるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末と比較し66,099千円減少し、当連結会計年度末で690,108千円となりました。この結果、自己資本比率は62.9%になっております。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、期首残高から99,446千円増加し、当連結会計年度末現在において405,552千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動の結果取得した資金は155,208千円（前期は16,111千円の取得）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失17,344千円の計上があったものの、仕入債務の増加88,090千円、売上債権の減少62,011千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動の結果使用した資金は13,802千円（前期は19,533千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出14,551千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は41,958千円（前期は41,989千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額37,942千円があったことによるものであります。

なお、当連結会計年度におけるキャッシュ・フロー指標は下記のとおりであります。

項目	2024年6月期	2025年6月期	2026年6月期
自己資本比率（％）	68.5	70.7	62.9
時価ベースの自己資本比率（％）	152.6	144.5	95.8
債務償還年数（年）	—	0.2	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	—	90.0	413.7

(注) 自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

債務償還年数：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※営業キャッシュ・フローはキャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いにつきましては、キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しており

ます。

※2024年6月期の債務償還年数とインタレスト・カバレッジ・レシオは営業キャッシュ・フローがマイナスのため記載しておりません。また、2026年6月期の債務償還年数は有利子負債がないため、記載しておりません。

(4) 今後の見通し

今後の弊社を取り巻く環境は、猛暑などの環境変動による作物生産への影響や、原材料価格の高騰、円安による全般的な物価の上昇などにより、引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。長期的な物価上昇は当社グループの事業活動においてもいちご果実・青果等の需要減等に影響を受けており、一方で供給面においては天候等の自然環境の影響を大きく受ける可能性があります。

次期の見通しは以下のとおりです。

いちご果実・青果事業は、夏秋期においては、自社いちご品種「ペチカほのか（夏瑞／なつみずき）」の食味の良さを活かし、ギフト向け販売などに引き続き注力するなど、利益率の向上を図ります。また、冬春期においては、近年のいちご市場相場価格の動向を考慮した販売価格の設定を行い、利益の確保を重視した販売体制を継続します。これにより、いちご果実・青果事業の売上高は2,232,134千円を見込んでおります。

種苗事業は、「ペチカほのか」「ペチカエバー」の特長を活かした産地展開を推進します。さらに当社の持ついちごの栽培・育種技術、ノウハウを活かした海外事業を積極的に展開することで、種苗事業の売上高は70,399千円を見込んでおります。

馬鈴薯事業は、当社が国内販売権を有している海外オリジナル品種の販売を中心に、適正な仕入管理を継続することで、利益率の向上を図ります。これにより馬鈴薯事業の売上高は63,414千円を見込んでおります。

運送事業は、人員を拡充し、自社配送を効率的に運用することに注力して、収益の向上を図ります。これにより運送事業の売上高は180,014千円を見込んでおります。

以上による取組みから、連結売上高は2,545,961千円（前期比7.3%増加）、営業利益は28,196千円（前期は営業損失22,339千円）、経常利益は28,346千円（前期は経常損失18,370千円）、親会社株主に帰属する当期純利益は18,420千円（前期は親会社株主に帰属する当期純損失27,958千円）を見込んでおります。

なお、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を確保するため、当面は日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際財務報告基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当連結会計年度 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	306,105	405,552
売掛金	577,796	515,784
棚卸資産	44,760	44,648
その他	7,960	10,638
貸倒引当金	△56	△50
流動資産合計	936,566	976,574
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	435,536	435,085
減価償却累計額	△400,785	△404,385
建物及び構築物（純額）	34,751	30,699
機械装置及び運搬具	199,229	208,652
減価償却累計額	△179,908	△192,227
機械装置及び運搬具（純額）	19,321	16,424
土地	37,400	37,400
その他	29,962	30,619
減価償却累計額	△28,393	△29,150
その他（純額）	1,568	1,468
有形固定資産合計	93,041	85,993
投資その他の資産		
繰延税金資産	13,100	8,934
その他	26,982	26,454
投資その他の資産合計	40,082	35,389
固定資産合計	133,124	121,382
資産合計	1,069,690	1,097,957

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当連結会計年度 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	91,811	179,902
1年内返済予定の長期借入金	4,016	-
未払金	37,176	38,639
未払法人税等	8,230	2,614
その他	17,281	23,119
流動負債合計	158,516	244,276
固定負債		
退職給付に係る負債	49,644	53,748
役員退職慰労引当金	102,130	106,630
資産除去債務	3,192	3,193
固定負債合計	154,966	163,571
負債合計	313,482	407,848
純資産の部		
株主資本		
資本金	421,250	421,250
資本剰余金	110,791	110,791
利益剰余金	224,626	158,585
自己株式	△459	△517
株主資本合計	756,207	690,108
純資産合計	756,207	690,108
負債純資産合計	1,069,690	1,097,957

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)	当連結会計年度 (自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)
売上高	2,412,711	2,372,498
売上原価	1,862,636	1,853,299
売上総利益	550,075	519,198
販売費及び一般管理費		
運搬費	155,852	165,627
役員報酬	49,800	50,700
給料及び手当	92,258	103,321
役員退職慰労引当金繰入額	4,500	4,500
退職給付費用	2,895	2,968
その他	206,702	214,421
販売費及び一般管理費合計	512,008	541,538
営業利益又は営業損失(△)	38,066	△22,339
営業外収益		
受取利息	315	1,033
受取配当金	0	0
債務勘定整理益	116	1,882
その他	1,146	1,573
営業外収益合計	1,578	4,489
営業外費用		
支払利息	179	375
為替差損	—	144
営業外費用合計	179	520
経常利益又は経常損失(△)	39,466	△18,370
特別利益		
固定資産売却益	1,410	1,025
特別利益合計	1,410	1,025
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	40,876	△17,344
法人税、住民税及び事業税	11,003	6,448
法人税等調整額	5,161	4,165
法人税等合計	16,164	10,614
当期純利益又は当期純損失(△)	24,712	△27,958
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	24,712	△27,958

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)	当連結会計年度 (自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)
当期純利益又は当期純損失(△)	24,712	△27,958
包括利益	24,712	△27,958
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	24,712	△27,958
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)

(単位: 千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	421,250	110,791	237,997	△393	769,645	769,645
当期変動額						
剰余金の配当			△38,084		△38,084	△38,084
親会社株主に帰属する当期純利益			24,712		24,712	24,712
自己株式の取得				△66	△66	△66
当期変動額合計	—	—	△13,371	△66	△13,437	△13,437
当期末残高	421,250	110,791	224,626	△459	756,207	756,207

当連結会計年度(自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)

(単位: 千円)

	株主資本					純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	421,250	110,791	224,626	△459	756,207	756,207
当期変動額						
剰余金の配当			△38,082		△38,082	△38,082
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△27,958		△27,958	△27,958
自己株式の取得				△58	△58	△58
当期変動額合計	—	—	△66,040	△58	△66,099	△66,099
当期末残高	421,250	110,791	158,585	△517	690,108	690,108

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)	当連結会計年度 (自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	40,876	△17,344
減価償却費	19,707	21,482
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	△6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5,316	4,104
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4,500	4,500
受取利息及び受取配当金	△315	△1,033
支払利息	179	375
有形固定資産売却損益(△は益)	△1,410	△1,025
売上債権の増減額(△は増加)	657	62,011
棚卸資産の増減額(△は増加)	△8,243	111
仕入債務の増減額(△は減少)	△47,828	88,090
その他の資産・負債の増減額	7,123	5,079
小計	20,562	166,345
利息及び配当金の受取額	315	1,033
利息の支払額	△179	△375
法人税等の支払額	△12,036	△11,796
法人税等の還付額	7,448	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,111	155,208
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△21,081	△14,551
有形固定資産の売却による収入	1,624	1,025
保険積立金の積立による支出	△74	△141
敷金及び保証金の差入による支出	—	△132
その他	△2	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,533	△13,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	400,000
短期借入金の返済による支出	△200,000	△400,000
長期借入金の返済による支出	△3,996	△4,016
配当金の支払額	△37,993	△37,942
財務活動によるキャッシュ・フロー	△41,989	△41,958
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△45,411	99,446
現金及び現金同等物の期首残高	351,517	306,105
現金及び現金同等物の期末残高	306,105	405,552

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

全ての子会社を連結しております。

(1) 連結子会社の数 1社

(2) 連結子会社の名称

株式会社エス・ロジスティックス

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

・棚卸資産

商品

主として個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

製品・原材料・仕掛品・貯蔵品

移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

・有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8～38年

機械装置及び運搬具 2～35年

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、当社及び連結子会社は一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

②役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社は内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算上、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

顧客との契約から生じる収益に関し、当社グループの主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

いちご果実・青果事業、種苗事業、馬鈴薯事業については、主にいちご果実、青果、自社品種いちご苗、種・青果馬鈴薯の販売を行っており、運送事業については、主に商品等の配送業務を行っております。顧客に対して商品等を納入することを履行義務として識別しており、顧客の検収時点において顧客が当該商品等に対する支配を獲得し、履行義務が充足されると判断していることから、当該時点で収益を認識しております。

また、一部の取引について、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

なお、当社グループの各事業における主な支払条件は履行義務の充足時点から通常1ヶ月以内であり、履行義務に対する対価に重要な金融要素は含まれておりません。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループのうち、親会社（提出会社）は、製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部において取扱う製品・サービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。また、連結子会社は、独立した経営単位であります。

従って、当社グループは、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントと、連結子会社におけるセグメントから構成されており、「いちご果実・青果事業」「種苗事業」「馬鈴薯事業」及び「運送事業」の4つを報告セグメントとしております。

「いちご果実・青果事業」は、いちご果実（自社品種いちご果実・その他いちご果実）、いちご果実以外の青果及び農業用生産・出荷資材の仕入販売を行っております。

「種苗事業」は、自社品種いちご苗やその他の種苗の生産販売及び四季成りいちご（夏秋いちご）の栽培・育種技術に関する業務の受託を行っております。

「馬鈴薯事業」は、種馬鈴薯の生産販売及び仕入販売、青果馬鈴薯の仕入販売を行っております。

「運送事業」は、配送業務を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されているセグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は主に市場価格や製造原価に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解
情報

前連結会計年度（自 2024年7月1日 至 2025年6月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送	計		
売上高							
国内売上高	2,153,986	46,789	74,657	131,943	2,407,377	—	2,407,377
海外売上高	—	5,334	—	—	5,334	—	5,334
顧客との契約から生じる 収益	2,153,986	52,124	74,657	131,943	2,412,711	—	2,412,711
外部顧客への売上高	2,153,986	52,124	74,657	131,943	2,412,711	—	2,412,711
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	130,882	130,882	△130,882	—
計	2,153,986	52,124	74,657	262,825	2,543,594	△130,882	2,412,711
セグメント利益	158,137	15,494	4,212	21,523	199,368	△161,302	38,066
セグメント資産	629,018	53,569	5,460	119,274	807,322	262,367	1,069,690
その他の項目							
減価償却費	1,969	4,139	17	11,794	17,921	1,785	19,707
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	760	1,744	—	17,550	20,054	1,144	21,198

（注）1. セグメント利益の調整額△161,302千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

セグメント資産の調整額262,367千円には、セグメント間債権消去△8,196千円、各報告セグメントに配分していない全社資産270,564千円が含まれております。全社資産は、親会社での余剰運用資金（現金及び預金）及び管理部門に係る資産等です。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	いちご果 実・青果	種苗	馬鈴薯	運送	計		
売上高							
国内売上高	2,083,962	51,782	75,699	154,819	2,366,263	—	2,366,263
海外売上高	—	6,234	—	—	6,234	—	6,234
顧客との契約から生じる 収益	2,083,962	58,017	75,699	154,819	2,372,498	—	2,372,498
外部顧客への売上高	2,083,962	58,017	75,699	154,819	2,372,498	—	2,372,498
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	134,010	134,010	△134,010	—
計	2,083,962	58,017	75,699	288,830	2,506,508	△134,010	2,372,498
セグメント利益又は損失 (△)	106,335	24,463	△244	18,266	148,821	△171,160	△22,339
セグメント資産	562,514	53,055	3,507	130,042	749,120	348,836	1,097,957
その他の項目							
減価償却費	1,880	3,735	14	13,420	19,051	2,431	21,482
有形固定資産及び無形固 定資産の増加額	843	282	—	11,320	12,445	1,989	14,434

(注) 1. セグメント利益の調整額△171,160千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

セグメント資産の調整額348,836千円には、セグメント間債権消去△8,888千円、各報告セグメントに配分していない全社資産357,724千円が含まれております。全社資産は、親会社での余剰運用資金(現金及び預金)及び管理部門に係る資産等です。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

海外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客名称または氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社シャトレーゼ	436,280	いちご果実・青果事業
三井物産流通グループ株式会社	293,270	いちご果実・青果事業
トーワ物産株式会社	264,669	いちご果実・青果事業

当連結会計年度（自 2025年7月1日 至 2026年6月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

海外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客名称または氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社シャトレゼ	473,214	いちご果実・青果事業
三井物産流通グループ株式会社	264,034	いちご果実・青果事業
トーワ物産株式会社	249,019	いちご果実・青果事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報の注記)

項目	前連結会計年度 (自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)	当連結会計年度 (自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)
1株当たり純資産額	992円86銭	906円11銭
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)	32円44銭	△36円71銭

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2024年7月1日 至 2025年6月30日)	当連結会計年度 (自 2025年7月1日 至 2026年6月30日)
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	24,712	△27,958
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) (千円)	24,712	△27,958
期中平均株式数 (株)	761,679	761,625

(重要な後発事象の注記)

当社は株式会社東京証券取引所より、2026年7月23日付で、当社株式を整理銘柄に指定し、2027年1月1日付で上場廃止とする旨の連絡を受けました。これにより、以下の日程で、東京証券取引所において上場廃止することとなりました。

上場廃止の決定 2026年7月23日

整理銘柄指定期間 2026年7月23日から2026年12月31日

上場廃止日 2027年1月1日

理由 基準日における上場維持基準（流通株式時価総額基準）に係る審査の結果、上場維持基準への不適合が確認されたため